

大湊高校 佐々木湖

今回、第23回高校生による海外エネルギー事情研修会に参加し、日本以外のエネルギー事情について学ぶことができたのと共に自分の成長にもつながったと強く感じました。

まず、エネルギーに関してフランスではアレバ社ラ・アーク再処理工場へ、スウェーデンではフォルシュマルク原子力発電所と中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設へ見学に行きました。フランスのアレバ社ラ・アーク再処理工場ではフランス国内の原子力発電所で発生した使用済燃料の他、諸外国からの受け入れ分を再処理していました。青森県六ヶ所村にある日本原燃（株）原子燃料サイクル施設はこのアレバ社の技術協力を得て建設されたと知り、エネルギーを通じての国間のつながりを大切にしていると思いました。また、安全面にもしっかりとした対策がされていました。

日本でも行われていましたが、フランスの工場では自分の身につけていた衣服は着用せず、その施設内の専用の衣服を着用することや、見学が終わった後には放射線をどれくらい浴びたのかを測る検査もありました。

次にスウェーデン、フォルシュマルク原子力発電所について私が一番印象に残っていることは、この原子力発電所はチェルノブイリ原子力発電所事故の発生を西側の原子力発電所として最初に察知した施設でもあるということです。また、貯蔵施設見学の方では深さ50メートルまでいき、廃棄処分をどの様にしているのかなど質問等を通して学ぶことができました。それとはまた別に私たちは現地の高校生ともエネルギー事情についてディスカッションをする機会があり、その場でも多くのことを知ることができました。その中で私が考えたことは大きく2つあります。

1つ目は、日本国民はもう少しエネルギーについて、関心を持つべきだということです。フランスの高校生と議論をした際に、彼らは自分なりのエネルギーや発電についての意見を持っていました。話を聞くと小さい頃から、発電や自分達の国のエネルギー事情について勉強をしていたとっていました。対し、日本では福島第一事故があったものの6年ほど経った今では大人でも関心を寄せる人は少ないです。だから、私は今の日本の教育でもっと原子力やエネルギーについての知識を小さいうちから身につけることのできる環境が必要だと感じました。2つ目は、私たちが発表した内容にも近いですがエネルギーを節約する省エネにも目を向けるべきだということです。日本では、発電の手段ばかりに目を向けがちですが、その発電したエネルギーをどう使うのかも重要になってきます。フランスやスウェーデンでは、間違いなく日本よりエコに対する意識が高いです。フランスではスーパーのレジ袋を使わないことは法律にもなり、スウェーデンの多くの人是一年を通して自転車を活用します。特に、スウェーデンではエコに対して意識が強く、たいていの店では切り売り・量り売りが主流です。そして、ストックホルムには環境モデル地区ロイヤルシーポートがあります。ロイヤルシーポートは自然エネルギーと廃棄物を利用した循環型のモデル都市で、そのなかにはふつうに住宅があり、人が住んでいます。やはり、そこで

もエコ・環境に対する意識が強く町中に色で分別されたごみ箱のようなものがあり、道路には二酸化炭素を少量で抑える電気自動車やその充電場所、住民の多くがあまり自動車を使わずに歩いたりしていました。他国のエコ・環境についての意識の高さを目の当たりにして、私は改めて日本の関心・行動力のなさを痛感しました。日本国民は環境に対しての意識が他国に比べて低く、行動に移せていないのです。そのために、これらの二つはこれから日本ができる身近な取り組みとしてやっていくべきことだと思います。

そして、今回の研修事業の中で私たちは現地の高校生との交流もありました。1回目はフランス・グリニャール高校の生徒と2回目はスウェーデン・カテドラル高校の生徒と交流をしました。フランス・グリニャール高校では、約100人近くいる前で自己紹介を英語でしたり、日本・青森のプレゼンテーション、エネルギーディスカッションをしました。朝から初めて行くところで名前も言葉も知らない中に放り込まれるのか、と緊張や不安はありましたが、相手校の方は私たちを歓迎し暖かく出迎えてくれました。部屋の扉の前には黒板に“ようこそ”と日本語で書かれていたり、日本の歌を歌ってくれたりと本当に温厚で優しい人ばかりだと思いました。お昼を食べ昼休みや夜ごはんまで一緒に過ごし、1日という短い期間で国境を越えて友達もたくさんできました。それは、スウェーデン・カテドラル高校の生徒も一緒に、特に彼らと過ごす期間はフランスよりも長かったため彼らと過ごす時間は充実し、そして学ぶこともたくさんできました。両国の交流では、なによりも言語、育った環境が違う他国でありながらも仲良く、連絡先を交換しあったりできる事をすごくうれしく思います。私が仲良くなった子のなかには将来日本に住むために日本語の勉強を頑張るという子もいました。この交流はまた新たな目標をたてるきっかけにもなる、みんなにとっていい機会になったと感じます。

また、この研修を成功することができたのは青森県商工会議所連合会の皆さんや東北エネルギー懇談会を始め多くの方々協力してくれたおかげです。そして、原稿に目を通してくれた学校の先生方、金銭面準備や手続き等してくれた親、行動や諸生活を一緒にしてくれた5人の仲間、まだまだお世話になった人たちはたくさんいます。本当にありがとうございました。

今回、この研修に参加できたことを誇りに思いますし、自分が一回り成長できたと感じています。研修出発前に立てた目標をやり遂げた事、なかなか現地の言葉で話せなかったがうまくコミュニケーションをとれた事、エネルギーに関する施設見学や町の散策、他にもたくさん身をもって体験したことは私にとって大きな自信になりました。エネルギーの将来と自分の将来を考えるきっかけになったのです。この貴重な経験を糧にしてこれからも成長していきます。頑張ります！！ありがとうございました。